平成28年　11月　30日

平成２８年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２８年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成28年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①	国語Ａ	８６人	国語Ｂ	８６人
②	算数Ａ	８６人	算数Ｂ	８６人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

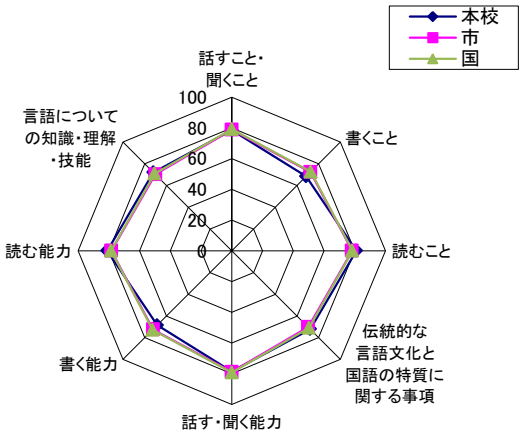
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

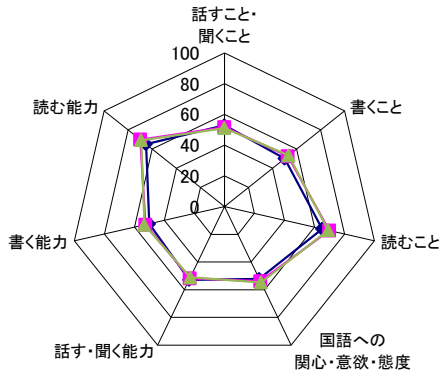
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	78.6	78.8	79.2
	書くこと	68.5	72.4	72.8
	読むこと	81.0	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.1	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	78.6	78.8	79.2
	書く能力	68.5	72.4	72.8
	読む能力	81.0	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	72.1	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	52.8	51.7	51.1
	書くこと	50.2	52.7	53.4
	読むこと	65.1	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	52.1	53.8	54.7
	話す・聞く能力	52.8	51.7	51.1
	書く能力	50.2	52.7	53.4
	読む能力	65.1	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

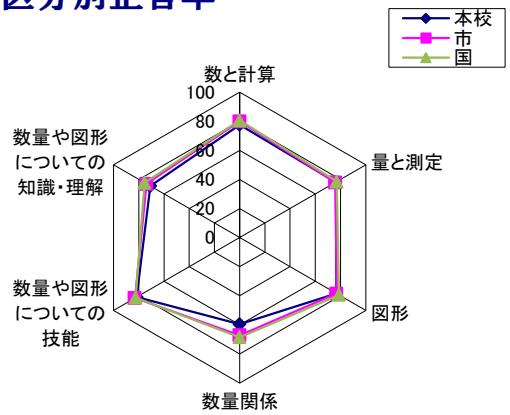
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は，国語Aは市と同程度で国のそれよりやや下回るが，国語Bは国・市のそれより上回っている。 ○目的に応じて質問したい内容についてどのような意図でインタビューしようとしているかを捉えることが国や市より大きく上回っている。 ●目的に応じて質問したいことを考えて整理することに課題が見られる。	・クラス全体やグループでの話し合いの中で，自分の考えとどう違うか比べながら聞くようにさせ，最後まで話を聞くような態度を身に付けさせる。特にグループでは，分からないところを必ず聞き返すようにさせ，注意深く聞くようにさせる。 ・課題解決のための調査を行う時は，予め質問の具体的内容や順序などを考えて取り組むようにさせる。
書くこと	平均正答率は，国語A，Bともに国・市のそれより下回る。 ○目的や意図に応じて書く事柄を整理する設問の正答率が市や国を大きく上回っている。作業用紙を工夫し委員会について取材の場やお互いにアドバイスし合う場を十分設け取り組ませた成果であると思われる。 ●目的や意図に応じて，表を基に自分の考えを書くことに課題がある。	・友達からの助言が効果的であるので，書いたものを読み合ったり，助言し合ったりする活動を多く取り入れるようにする。 ・調べたことをまとめる活動では，大枠の形を示したり，手本となるものを示し，書く手順や表現方法を真似ることから取り組むようにさせ，構成段階での読み合いで修正を加えながら学習を進めさせるようにする。 ・日記や行事の振り返りを書かせることで文章を書く機会を多く持たせるようにする。
読むこと	平均正答率は，国語A問題は，国・市より上回っているが，国語B問題は国・市のそれより下回っている。 ○登場人物の人物像について，複数の叙述を基に捉えることについては，国・市より大きく上回っている。 ●目的に応じて，本や文章を比べて読むなどの効果的な読み方の工夫をすることについて課題が見られる。	・課題を解決する目的の学習の中で，問題意識をもった読む活動を学習に取り入れる。 ・一方の資料の情報を他の資料に当てはめ調べる場合は，文章中の中心となる語を枠で囲んだり，色分けしたりしながら複数の資料を関係付けて読むようにさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は，国語Aで，国・市のそれよりやや上回っている。 ○漢字を正しく読んだり書いたりする設問の正答率は，国・市のそれよりかなり大きく上回っている。 ●ローマ字を書くことについての正答率は，ほぼ同程度であるが，撥音便の表記の正答率が国よりやや下回る。	・漢字の読み書きについては，ある程度定着が図れているので，漢字スキルを十分活用して繰り返し練習に励むようにさせる。 ・ローマ字で書く力がまだ不十分なので、パソコンの入力などでローマ字を使う機会を増やすようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

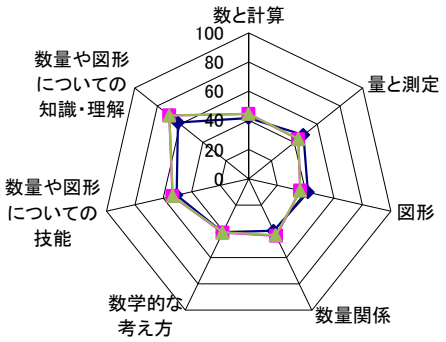
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	77.6	79.9	80.5
	量と測定	76.2	75.9	77.0
	図形	76.8	76.9	78.8
	数量関係	59.5	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.7	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	70.9	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	41.7	44.5	44.4
	量と測定	48.1	43.5	43.7
	図形	41.7	36.2	36.3
	数量関係	39.7	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	40.9	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	50.6	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	61.9	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，算数A，Bともに国・市のそれよりやや下回る。 ○繰り下がりのある減法，分数の乗法の計算はよくできている。学年全体で計画的に既習の計算練習をする機会を設定してきた成果であると考えられる。 ●小数の計算や整数との大小関係，示された場面を適切に読み取り，全体の人数を求める立式に課題が見られる。	・今後も基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに，朝のスキルタイムの時間に個に応じた指導を行っていく。 ・小数の計算や整数との大小関係については，数のしくみを理解できるように単位表を用いながら繰り返し指導していく。 ・示された場面を適切に読み取り，全体の人数を求める式づくりでは，数直線や図などを使って未知数を求められるように指導する。
量と測定	平均正答率は，算数A問題では国や市と同程度であるが，B問題では国・市より大きく上回っている。 ○単位量あたりの大きさを求める立式や示された説明を解釈し，用いられている考えを別の場面に適用して説明する設問の正答率が高い。 ●三角形の底辺と高さの関係の理解に課題が見られる。	・理由を記述する設問に一定の成果が見られたので，今後も自分の考えを式や図・言葉などを用いて表現する学習を進めていく。 ・三角形の面積の学習では，計算式を発表し合うだけでなく，工夫した考え方を分かりやすい言葉や図でノートにまとめさせることで，底辺と高さの関係を認識し，習得させていく。
図形	平均正答率は，算数A問題では国や市と同程度であるが，B問題では国・市より大きく上回っている。 ○図形を構成する角の大きさをもとに四角形を並べてできる図形を選ぶ設問の正答率が大きく上回っている。 ●正方形に内設する円の半径についての理解に課題が見られる。	・図形の性質などの基本的な知識を再確認し，さらに，それらを活用して物事を判断したり説明したりする力を育むことが必要である。授業においては，図形を観察して性質を見い出し，それらを用いて線分の長さを求めるなど，図形の性質を用いる学習を積極的に取り入れていく。
数量関係	平均正答率は，算数A，Bともに国・市のそれより下回る。 ●示された情報から割合を求める場面と捉え，比較量と基準量から割合を求める設問や1を超える割合を百分率で表す場面において基準量と比較量の関係を問う設問では，全国平均を大きく下回る。基準量，比較量，割合の関係を用いて問題を解決することに課題が見られる。	・割合の意味については，低学年から「倍」という言葉を用いて素地を養い，全学年を通して2つの数量の関係の比べ方や表し方を繰り返し指導する。 ・割合を目的に応じて適切に用いる力を育むためには，事象における基準量，比較量，割合の関係を正しくとらえることが大切である。数直線を用いてそれらの関係を明確にできるよう，ノートに書いたり，児童同士学び合ったりして理解を深められるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校第６学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

〇「ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがあるか」「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦しているか」「自分には，良いところがあるか」の自己肯定感についての質問の肯定回答率は，国に比べて高かった。
〇平日，休日ともに，授業以外で1日当たり1時間以上学習する割合は，国や県に比べて高かった。
〇学級会などで学級のきまりを決めたり，話し合い活動で折り合いをつけたり，学級みんなでの達成感についての質問の肯定的回答率は，国や県に比べて高かった。
〇地域の行事への参加の有無や地域での出来事への関心についての質問の肯定的回答率は，国や県に比べて高かった。
〇「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」という質問での肯定的回答率は，100％になった。
〇算数については「好きか」「大切か」「将来役立つか」の質問については，肯定的回答率が国や県に比べて高かった。

●読書量，読書好きが少ない傾向が見られた。自発的な読書だけでなく，本に触れる機会を教師が積極的に作り，本の楽しさなどを伝えていく活動を増やしながら，読書好きの児童を増やしていきたい。
●国語の「解答を文章で問題の解答のしかた」や，算数の「解き方が分からないときには，諦めずにいろいろな方法を考えるか」の質問の肯定的回答率は，国や県に比べてやや低かった。文章で書く問題や分からない問題に出会った時に，諦めて無回答で終わってしまう傾向が見られた。普段の学習から，間違えても良いことや自分の考えをもつ大切さ，また，できたときの喜びや達成感が生まれるような授業や教材などを考え実践していく中で，向上できるようにしていきたい。